

# たまつたなか 玉津田中遺跡

令和2年1月26日(日)

## 現地説明会資料



兵庫県教育委員会

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部  
〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町1-1-1 兵庫県立考古博物館内

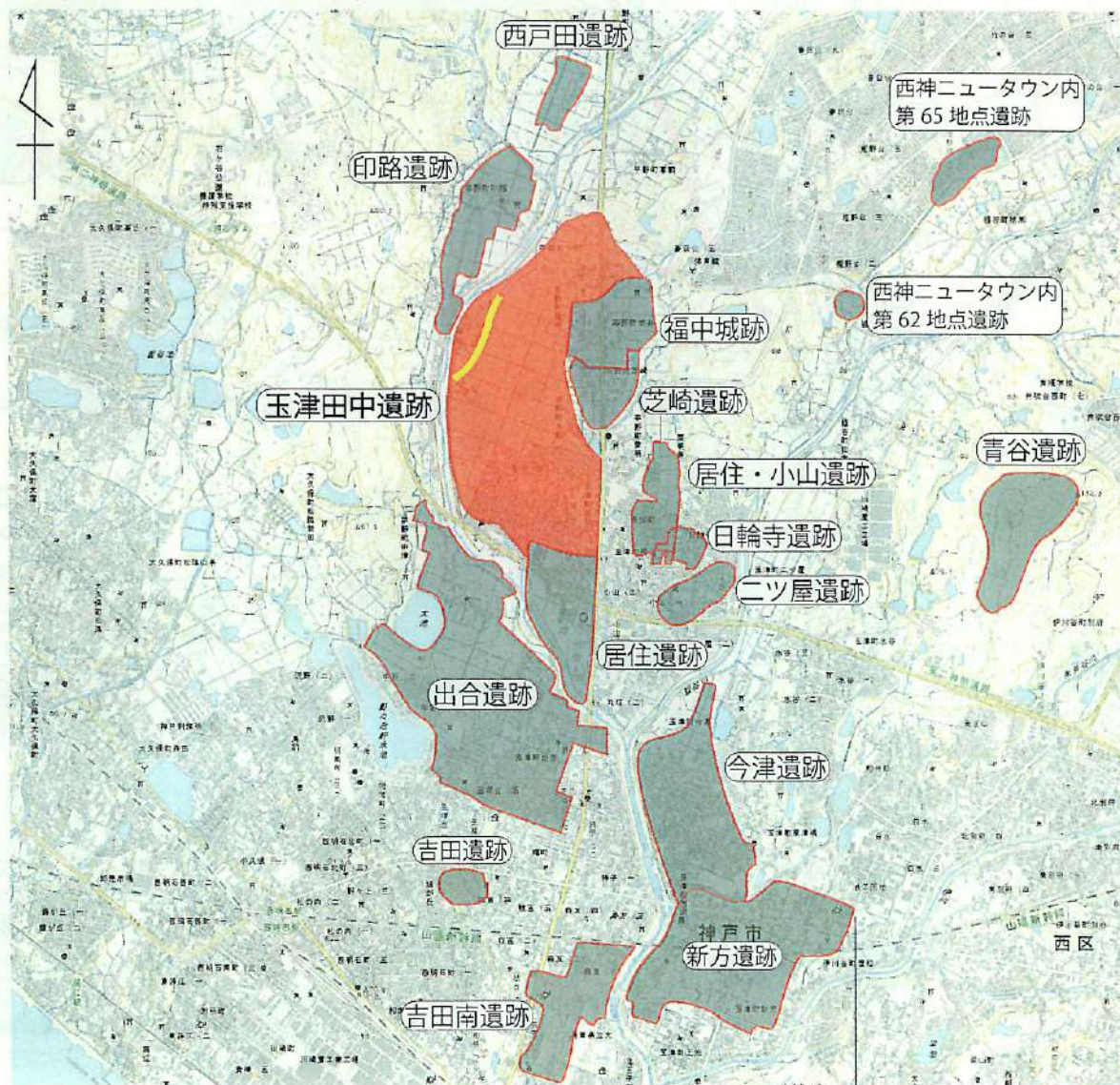
URL: <http://www.hyogo.ctc.or.jp>

### －はじめに－

玉津田中遺跡は、神戸市西区玉津町及び平野町に位置する遺跡です。

一般国道2号(第二神明道路)の建設に先立ち、(公財)兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、発掘調査をおこなってきました。

今回、No.164地点・No.171地点・No.175地点を調査しました。発掘調査は、道路の橋脚建設予定地のみ行われたため、各調査地点内は複数の調査区に分かれています。また、No.171地点では橋脚建設予定地の調査の後、新たに調整池建設予定地の調査(1区)を追加して行いました。現地説明会では、この1区の調査をご覧いただきます。



玉津田中遺跡と周辺の主要遺跡

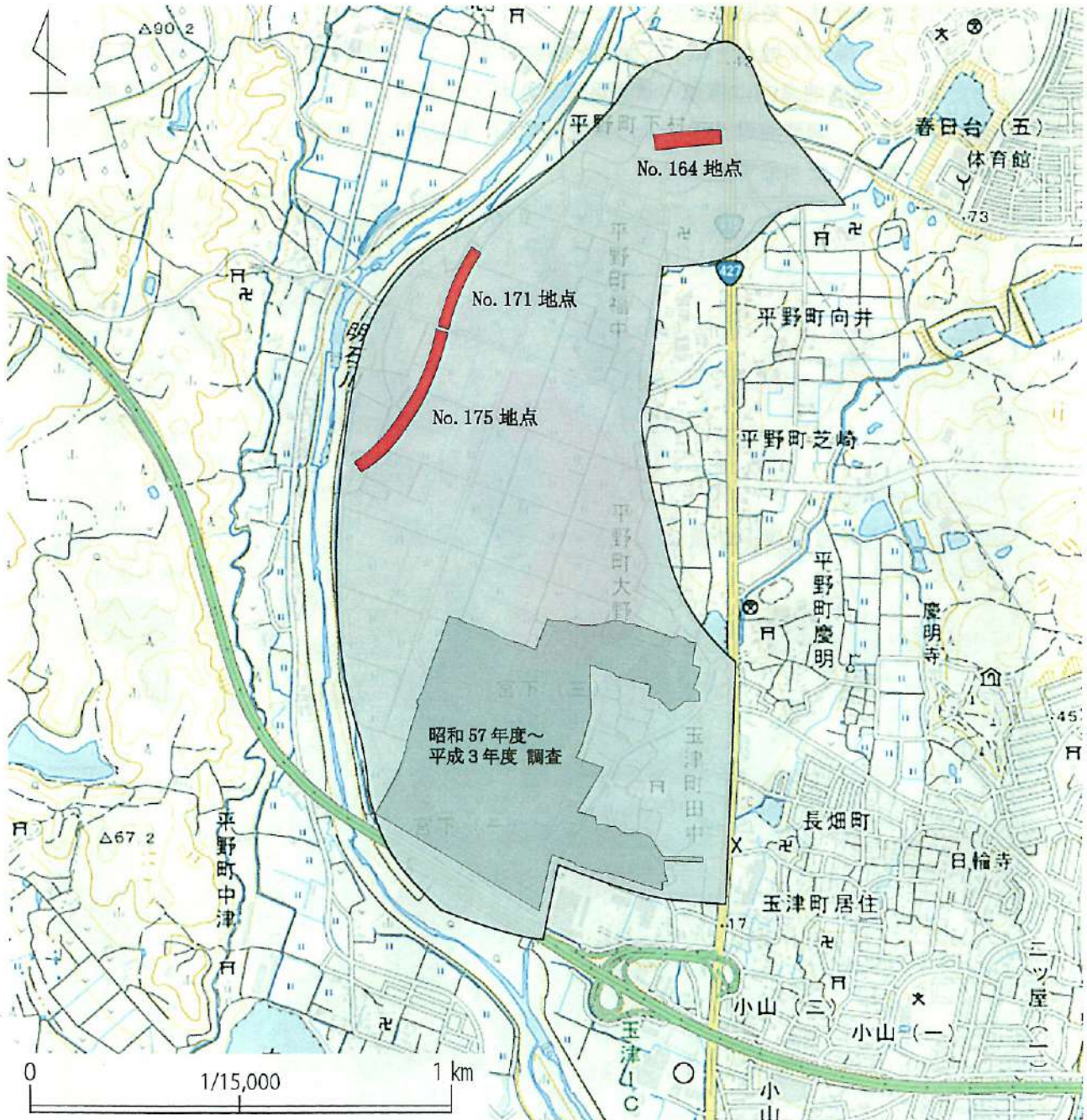


# 玉津田中遺跡の概要

玉津田中遺跡は、明石川中～下流域の沖積地から台地上にかけて立地する遺跡です。昭和 57 年度から平成 3 年度にかけて、ウインズタウン西神戸の区画整理事業に伴って、約 80,000 m<sup>2</sup>もの大規模な発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代晩期から古墳時代後期の集落と、平安時代後期から鎌倉時代の集落・居館跡が確認されました。

なかでも特筆すべきは、弥生時代の遺構と遺物です。遺構は、多数の竪穴住居跡や方形周溝墓などが見つかりました。また、その周辺からは広範囲におよぶ水田の痕跡が見つかりました。遺物についても、多量の土器や石器、木器、青銅器が出土しています。なかには、遠方の地域からもたらされた土器や石器もみられ、当時の人々の交流の様子が窺えます。

このように、玉津田中遺跡は弥生時代においては播磨地域を代表する中心的な集落でした。



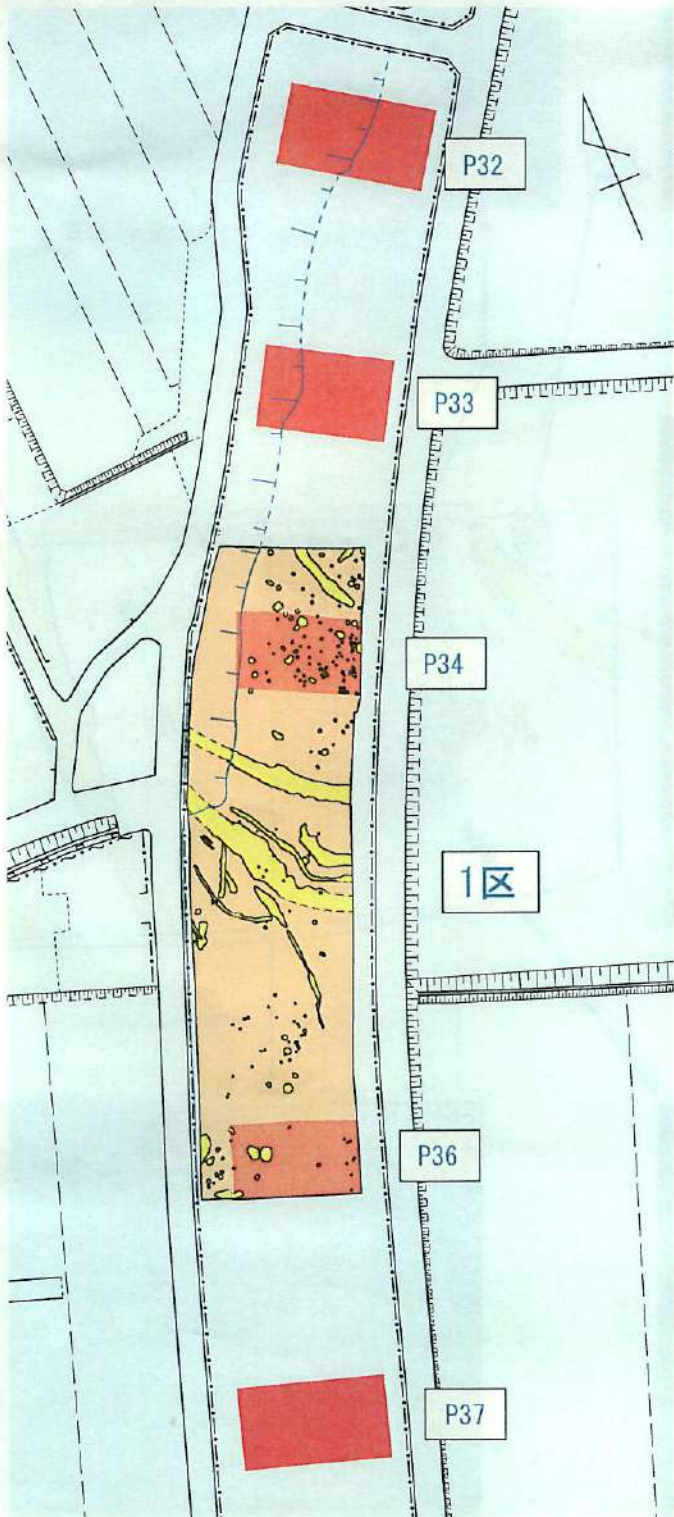
玉津田中遺跡の遺跡範囲と今回の調査箇所



## No. 171 地点

6箇所で調査を行いました。今回見学していただく1区は、追加で調査を行った調整池建設予定地であるため、先行して調査を行ったP34区とP36区に重複するかたちで設定されています。調査の結果、No. 171地点の全ての調査区で弥生時代前期と中世の遺構と遺物が検出されています。

今回は、P34区とP36区を含む1区と、その他の調査区に分けて説明します。



No. 171 地点調査地



No. 171 地点 俯瞰写真



縄文人と弥生人の共存を示す 弥生の溝の最上部から石包丁と底から土偶出土

神戸市西区平野町下村 明石川東岸 第二神明バイパス工事現場 玉津田中遺跡 No.171 地点

No.171地点 1区 (弥生時代前期)

玉津田中遺跡



P34区 全景(西から)



SK(土坑)06  
土坑の底から、2個体分の土器が重なった状態で出土しています。そのうちの1個体は、河内地域で作られ、持ち込まれたものです。



SK(土坑)04  
SK(土坑)05  
隣り合った土坑の中から、やや斜めに掘えられた状態で壺が出土しています。これらは土器棺墓と考えられます。



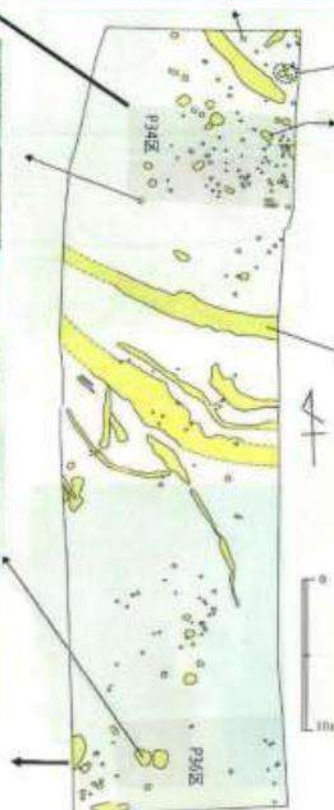
SK(土坑)02  
土坑の中から、弥生時代前期の土器と重なり合った状態で、長さ46cm、幅約2.5cmの石包丁が出土しています。



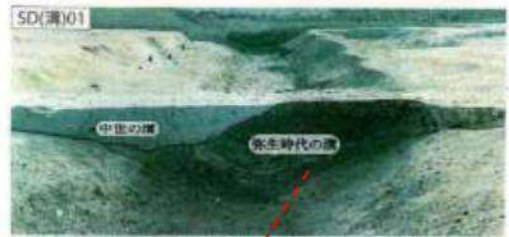
SK(土坑)01  
直径1.6m、深さ0.7mの土坑の底から、壺が出土しています。



P36区 全景(西から)



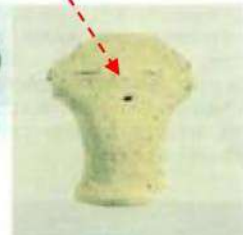
SK(土坑)03  
土坑の中から、壺や甕がまとまって出土しています。



SD(溝)01  
幅4.5m、深さ0.8mの溝が検出されています。この溝は、弥生時代に掘られ、埋設したのも、中世に再び掘り直されています。弥生時代の溝からは、土器も有創了、小銅が出土しています。



溝の最上層から出土した石包丁



溝の最下層から出土した土偶

No.171地点 1区 (弥生時代前期)



玉津田中遺跡  
出土土偶



内部



## No. 171 地点（1区以外）

No. 171 地点のその他の調査区では、1区と同様に、弥生時代前期および中世の遺構と遺物が検出されています。P32区では、調査区の西側で明石川の水流によって長い年月をかけて形成された崖（**段丘崖**）が見つかっています。崖の高さは約0.8mで、P32区の南側のP33区や1区からも見つかっています。崖の上からは、弥生時代の溝やピットが見つかっています。また、溝からは弥生時代前期の土器と共に、**石包丁**が出土しています。この石包丁はサヌカイトという石で作られており、香川県から持ち込まれたものです。

P33区では、土坑の中から弥生時代前期の壺や甕がまとまって出土しています。出土した壺の口の付近には、紐を通すための孔が空いており、蓋とセットであったと考えられます。



P32区 石包丁が出土した溝



P32区 段丘崖上の遺構  
(黄色の点線が段丘崖)



P32区 段丘崖



P33区 段丘崖の下から出土した壺



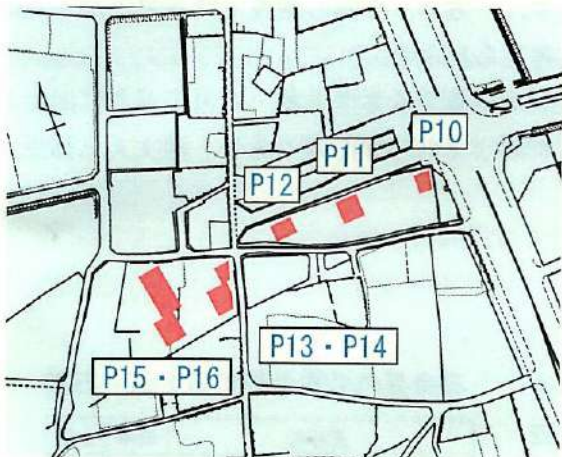
P33区 土坑内からまとまって出土した壺や甕



## No. 164 地点

国道 175 号線に面する No. 164 地点では、5 箇所調査を行いました。この調査地点は、明石川左岸の台地の上に立地しています。調査の結果、古代から中世にかけての溝や土坑、ピットが検出されています。また、P11 区の土坑からは、須恵器の椀や甕がまとまって出土しています。

これらのことから、古代から中世にかけて台地上に集落が形成されていたことが明らかとなりました。



No. 164 地点の調査区



P11 区 土坑内から出土した須恵器

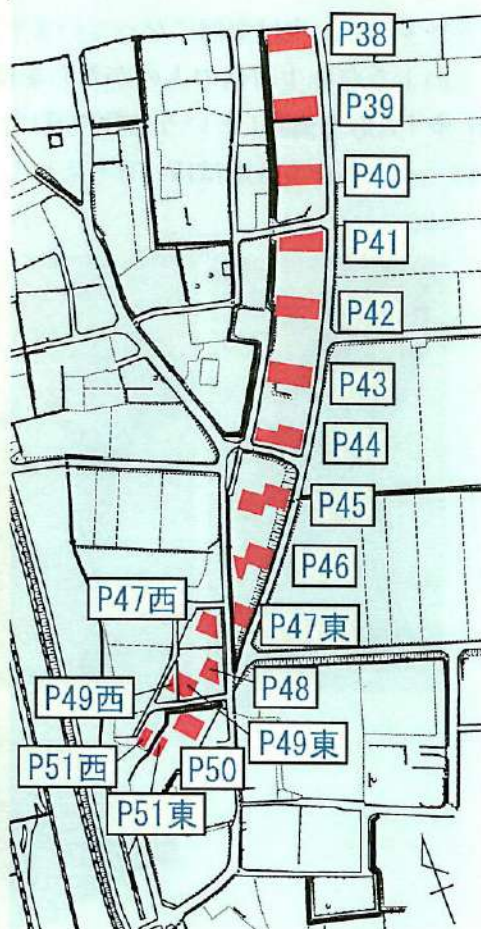
## No. 175 地点

No. 171 地点の南側に位置する No. 175 地点では、17 箇所調査を行いました。調査の結果、弥生時代から近世にかけての遺構が検出されています。その中でも、中世の遺構が多く確認されています。P48 区では、土坑の中からすり鉢や塀、羽釜、甕などがまとまって出土しています。また、付近の P46 区や P47 区からも同様に、土坑や溝から土師器や須恵器がまとまって出土しています。

このように、No. 175 地点を含めたこの辺り一帯には、中世の集落が広がっていたことが明らかとなりました。



P48 区 土坑から出土したすり鉢や塀、皿



No. 175 地点の調査区



—まとめ—

今回の調査の結果、弥生時代と平安時代以降の遺構と遺物が検出されました。なかでも**弥生時代前期**（約2,300年前）の遺構と遺物が注目されます。特筆すべきは、SD(溝)01から出土した**土偶**と、SK(土坑)02から出土した**石棒**です。これらは、縄文時代の文化を色濃く残した遺物であり、弥生土器と共に出土していることが注目されます。また、SK(土坑)04とSK(土坑)05から出土した土器は、土器棺墓と考えられ、こちらも縄文時代の文化の一端と考えられます。一方で、今回の調査では石包丁が4点出土しており、弥生文化の特徴と言える稲作を営んでいたと考えられます。

このように、縄文文化を象徴する土偶・石棒と、弥生文化を象徴する弥生土器・石包丁が共に出土している点が今回の調査の最大の成果と言えます。弥生時代前期は文化の移行期であり、縄文人と弥生人が共生していたことがわかる事例であると言えます。

## 弥生時代の土偶と石棒

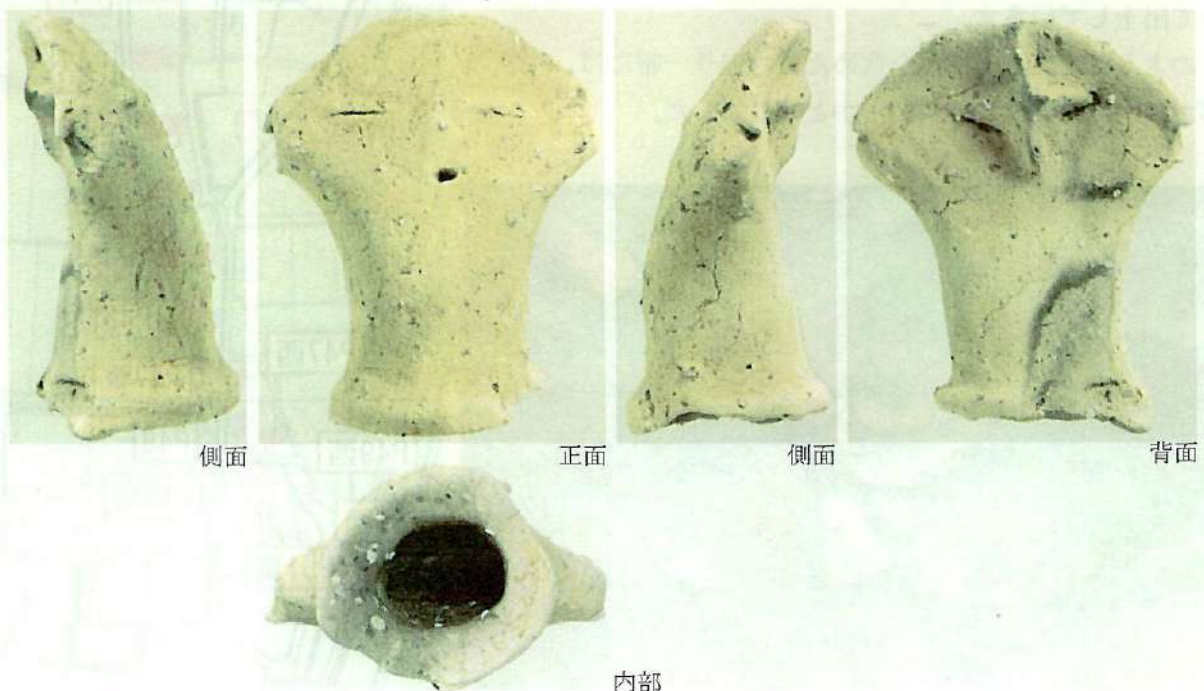
兵庫県を含めた近畿地域では、土偶と石棒は縄文時代の後半期に最も出土します。弥生時代になると、その出土数は減少の一途をたどっていきます。兵庫県内での弥生時代の出土例としては、土偶が6例目(神戸市内4例目)、石棒が9例目(神戸市内7例目)となります。また、土偶と石棒が同じ遺跡で出土した例としては4例目となります。

玉津田中遺跡から出土した土偶は、顔面が非常に丁寧に表現されており、中は空洞になっています。

このような弥生時代の人のかたちを模した土製品は、「土偶」や「人形土製品」という名称で呼ばれています。しかし、この二つの名称の区別ははっきりとはしていません。

兵庫県内の弥生時代の土偶・石棒

遺跡名		石棒	土偶
雲井遺跡	神戸市中央区	○	○
宇治川南遺跡	神戸市兵庫区	○	○
大開遺跡	神戸市兵庫区	○	
長田神社境内遺跡	神戸市長田区		○
本山遺跡	神戸市東灘区	○	
北青木遺跡	神戸市東灘区	○	
戎町遺跡	神戸市須磨区	○	
玉津田中遺跡	神戸市西区	○	○
口酒井遺跡	伊丹市		○
丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市	○	○
井手田遺跡	南あわじ市	○	



側面

正面

側面

背面

内部

玉津田中遺跡から出土した土偶